

次の文章を読み、あとの問いに答えよ。

むかし左兵衛の督^(注1)なりける在原の行平といふありけり。その人の家
 によき酒ありと(宴会に招かれた人々が)聞きて、上^(注2)にありける左中
 弁藤原の良近^(注3)といふをなむ、まらうどさねにて、その日は^(注4)あるじ
 まつけしたりける。なさけある人にて、かめに花をさせり。その
 花のなかに、あやしき藤の花ありけり。花のしなひ、三尺六寸ばかり^(注5)
 なむありける。それを題にてよむ。よみはてがたに、あるじのほら
 かななる、あるじしたまふと聞きて来たりければ、とらへてよませけ
 る。もとより歌のことはしらざりければ、すまひけれど、しひてよ
 ませければかくなむ、

【A】咲く花の下にかくるる人を多み

ありしにまさる藤のかけかも
 「⁷なごかくしもよむ」といひければ、^(注3)おほきおとどの⁸栄花のさか
⁹藤氏の、¹⁰ことに栄ゆるを思ひてよめる」となむ
 りにみまそがりて、
 いひける。みな人、¹⁰そしらすなりにけり。

(注) 1 左兵衛の督 左兵衛府の長官のこと。左兵衛府は宮中警護などを
 担当した役所の一つ。
 2 三尺六寸 約一メートル九センチ
 3 おほきおとど 太政大臣藤原良房のこと。

問一 傍線部1の意味として、最も適当なものを、次から一つ選べ。

- ① 知己
- ② 主賓
- ③ 珍客
- ④ 招かれざる客

問二 傍線部2の動作主は誰か。最も適当なものを、次から一つ選べ。

- ① 在原行平
- ② 藤原良近
- ③ 作者
- ④ おほきおとど

問六 傍線部6の意味として、最も適当なものを、次から一つ選べ。

- ① 辞退したけれど
- ② 恥じたけれど
- ③ 同居していたけれど
- ④ 承知したけれど

問七 【A】の歌が「今をときめく藤原氏の権勢の恩恵をこうむる藤原良
 近への『皮肉の歌』」だとして、以下の問いに答えよ。

- ① 傍線部7の意味として、最も適当なものを、次から一つ選べ。
- ② どの歌が藤原良近への嫌みのような歌を詠むのか
- ③ どの歌が藤原氏に媚びるような歌を詠むのか
- ④ どの歌が藤原氏に嫌みのような歌を詠むのか

問八 傍線部8の意味として、最も適当なものを、次から一つ選べ。

- ① 栄華の盛りに亡くなられて
- ② 栄華の盛りであられて
- ③ 栄華の盛りに失敗をして
- ④ 栄華の盛りでへそを曲げられて

問三 傍線部3はどのような意味か①、また、それは誰のことか②。最も
 適当なものを、それぞれ次から一つずつ選べ。(各4点)

- ① 人情にあつい人
- ② 優しい心の持ち主
- ③ 感傷的な心の人
- ④ 風流心のある人
- ① 在原行平
- ② 藤原良近
- ③ 作者
- ④ おほきおとど

①

②

問四 傍線部4は何のためか。最も適当な説明を、次から一つ選べ。

- ① 藤原良近への歓迎の意を表すためにその姓にあやかる花を活けた
- ② 藤原良近を驚かすために珍しい「藤」の花を取り寄せた
- ③ 藤原良近への親愛の情を示すためにその姓にあやかる花を活けた
- ④ 藤原良近への嫌みのために「藤」の花を切って活けた

問五 傍線部5は「主人の兄弟にあたる人」という意味だが、本文が「伊
 勢物語」であることから連想できるその人物とは誰か。最も適当なも
 のを、次から一つ選べ。(5点)

- ① 紀貫之
- ② 藤原定家
- ③ 在原業平
- ④ 藤原俊成

- (い) 傍線部9はどのような意味あいの返答か。最も適当なものを、次から一つ選べ。(5点)
- ① 藤原氏の栄華には自分もその恩恵をこうむっているという感謝の意
- ② 藤原氏の栄華の恩恵に自分も浴せればいいのにといい羨望の気持ち
- ③ 表向きの表現を盾に、単に藤原氏の栄華を歌っただけというおとほけ
- ④ きちんと読めば、藤原氏の栄華を称えているのは明白なのにといい疑問

- (二) 傍線部10のように反応したのはなぜか。最も適当な理由を、次から一つ選べ。(5点)
- ① 歌の巧拙を真剣に論じ合ったら、せつかくの酒宴の場がしらけてしまいそつだから
- ② 歌の内容をこれ以上追及すると、主賓や藤原氏との関係で不利益が生じそつだから
- ③ 一人だけ藤原氏の権勢に迎合する歌を詠んだことに対し、ねたみを感じていたから
- ④ ヘタにその歌を批判したら、逆に自分の歌の出来具合が追及されそつだから

2 伊勢物語

歌物語

検印
/ 50

次の文章を読み、あとの問いに答えよ。

むかし、¹あてなる男ありけり。その男のもとなりける人を、^(注1)内記にありける藤原の敏行といふ人よばひけり。されど若ければ、²文もをさをさしからず、言葉もいひ知らず、いはむや³は詠まざりければ、かのあるじなる人、案を書きて、書かせてやりけり。めでまどひにけり。

さて男の詠める。

つれづれのながめにまさる^(注2)涙河袖のみひちて逢ふよしもなし

返し、例の男、女にかはりて、

あさみこそ袖はひつらめ⁴涙河⁵さへ流ると聞かば頼まむ
 といへりければ、男⁶といいたうめて、今⁷まで、巻きてフバコ^aに入
 れてありとなむいふ^アなる。

男、文おこせたり。得てのちのことなりけり。

「³雨の降りぬべきになむ見わじらひはべる。身⁴さいはひあらば、
 この雨は降らじ」といへりければ、例の男、女にかはりて詠みてやら
 す。

かずかずに思ひ思はず問ひがたみ身を知る雨は降りぞまされる
 と詠みてやれりければ、⁴養も笠も取りあへで、しとどに濡れてまど
 ひ来にけり。

15

5

(注) 1 内記 中務省に属し、詔勅・宣命を作り、位記を書く職。大中小の三等級があり、文章に巧みな儒者が任せられた。なお藤原敏行は、八六六(貞観八)年少内記、四年後に大内記となった。

2 涙河 涙がとめどなく流れる様を河になぞらえたもの。物思いのために、涙の河の水かさが増すという発想に基づく表現。

問一 空欄¹をつめるのに最も適当なものを、次から一つ選べ。(5点)

- ① 句 ② 詩 ③ 歌 ④ 文 ⑤ 賦

問二 空欄²をつめるのに最も適当なものを、次から一つ選べ。(5点)

- ① 世 ② 水 ③ 岸 ④ 縁 ⑤ 身